

排出削減実績報告書

排出削減事業の名称：

A 重油貫流ボイラーから都市ガス貫流ボイラーへの
更新プロジェクト

排出削減事業者名：丸長鍍金株式会社

排出削減事業共同実施者名：静岡ガス株式会社

その他関連事業者名：（該当なし）

目次

1	排出削減事業者の情報	2
2	排出削減活動の概要	2
2.1	排出削減事業の名称	2
2.2	排出削減事業の目的	2
2.3	温室効果ガス排出量の削減方法	2
2.4	国内クレジット認証要件の確認	2
2.5	承認排出削減事業計画からの変更項目	2
3	排出削減活動期間	3
3.1	プロジェクト開始日	3
3.2	モニタリング対象期間	3
4	温室効果ガス排出削減量	3
4.1	採用した排出削減方法論の情報	3
4.2	活動量	3
4.2.1	活動量・原単位	3
4.2.2	活動量の採用根拠	3
4.3	事業の範囲（バウンダリー）	3
5	モニタリング対象指標	4
6	モニタリング体制	5
6.2	モニタリング対象指標の QA/QC	5
7	排出削減量の計算	6
7.1	事業実施後排出量	6
7.2	ベースライン排出量	6
7.3	リーケージ排出量	6
7.4	温室効果ガス排出削減量	6
8	省エネルギー量	7

1 排出削減事業者の情報

排出削減事業者	
会社名	丸長鍍金株式会社
排出削減事業を実施する事業所	
事業所名	第一工場
住所	静岡県静岡市清水区西大曲町 12-3
排出削減事業共同実施者（国内クレジット保有予定者）	
排出削減事業共同実施者名	静岡ガス株式会社

2 排出削減活動の概要

2.1 排出削減事業の名称

A 重油貫流ボイラーから都市ガスボイラーへの更新プロジェクト

2.2 排出削減事業の目的

当社が使用している A 重油貫流ボイラー2 台を、高効率都市ガス貫流ボイラーへ更新する。ボイラーの高効率化による燃料使用量の削減及び低炭素燃料への燃料転換によって、CO₂ 排出量を削減する。

2.3 温室効果ガス排出量の削減方法

現在使用している貫流ボイラーは、経年劣化によりボイラー効率が悪化しているため、これを新しい貫流ボイラーへ更新することで燃料使用量を削減し、CO₂ 排出量を削減する。また、都市ガスは A 重油よりも単位発熱量あたりの炭素含有量が少ないため、ボイラーの燃料を都市ガスに転換することにより、CO₂ 排出量を削減する。

2.4 国内クレジット認証要件の確認

排出削減量は承認排出削減計画に従って当該計画を実施した結果生じたものか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ
排出削減量は承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されているか	<input checked="" type="checkbox"/> はい <input type="checkbox"/> いいえ

2.5 承認排出削減事業計画からの変更項目

3 排出削減活動期間

3.1 プロジェクト開始日

2009年7月21日

3.2 モニタリング対象期間

(本報告における実績報告期間)

2009年7月21日 ～2010年3月31日

4 温室効果ガス排出削減量

4.1 採用した排出削減方法論の情報

方法論番号	方法論名称
001	ボイラーの更新

4.2 活動量

4.2.1 活動量・原単位

4.2.2 活動量の採用根拠

4.3 事業の範囲（バウンダリー）

このプロジェクトの範囲は、既存のA重油貫流ボイラーと更新後の都市ガス貫流ボイラーの燃料使用に由来するCO₂排出量である。これらボイラーが生産した蒸気を社外へ供給することはないため、プロジェクトの範囲は、更新する都市ガス貫流ボイラーおよび更新するボイラーから蒸気の供給を受ける設備である。

5 モニタリング対象指標

項目	定義	単位	実績値	モニタリング方法・ 根拠資料	(モニタリング方法に 変更ある場合、)変更理 由
$F_{\text{fuel,Pj}}$	都市ガス使用量	Nm^3	ボイラーNo.1 No.2 合計 55,052 Nm^3	ガス供給会社からの「ガス料 金等請求書」を基に算定 ※換算係数 0.962	N/A
$HV_{\text{fuel,Pj}}$	都市ガスの単位発熱量	$\text{GJ}/\text{千}$ Nm^3	45.0	ガス会社の公表値 (高位発熱量) 「一般ガス供給約款」	N/A
ϵ_{pj}	燃料転換後ボイラー効率	%	86.4% (7-12月) 87.3% (1-3月) (高位発熱量)	ボイラーメーカーからのボイ ラー診断月報を利用 ※低い効率の値を採用	N/A
$CF_{\text{fuel,BL}}$	A 重油の単位発熱量あた りの炭素排出係数	tC/GJ	0.0189	デフォルト値	N/A
$CF_{\text{fuel,Pj}}$	都市ガスの単位発熱量あ たりの炭素排出係数	tC/GJ	0.01359	デフォルト値	N/A

6 モニタリング体制

6.2 モニタリング対象指標の QA/QC

データの種類	QA/QC 手順
活動量	
都市ガス使用量	ガス会社から毎月送付される「ガス料金等請求書」を丸長鍍金経理課にて保管する。算出に用いるガス使用量は請求書の値をノルマル換算した値を用いる。
燃料転換後ボイラー効率	ボイラーメーカーよりのボイラー診断月報を丸長鍍金第一製造課が保管する
単位発熱量	
都市ガスの単位発熱量	ガス会社の供給約款を丸長鍍金第一製造課が保管する。発熱量に変更があった場合は、変更される年月日を記録し、保管する。
排出係数	
A 重油の単位発熱量あたりの炭素排出係数	方法論のデフォルト値に変更がないか書類作成者が確認する。
都市ガスの単位発熱量あたりの炭素排出係数	方法論のデフォルト値に変更がないか書類作成者が確認する

7 排出削減量の計算

7.1 事業実施後排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
No.1、2 ボイラー 55,052m ³ N	45GJ/千m ³ N (高位発熱量)	0.01359tC/GJ	123.4tCO ₂
EMPj			

7.2 ベースライン排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
No.1、2 ボイラー 67.942kL	0.0391GJ/L (高位発熱量)	0.0189tC/GJ	184.1tCO ₂
EM _{BL}			

7.3 リークージ排出量

活動量	単位発熱量	排出係数	CO2 排出量
LE			0tCO ₂

7.4 温室効果ガス排出削減量

項目	記号	
ベースライン排出量 (7.2)	EM _{BL}	184tCO ₂
事業実施後排出量 (7.1)	EMPj	123tCO ₂
リークージ排出量 (7.3)	LE	0tCO ₂
温室効果ガス排出削減量	ER	60tCO ₂

8 省エネルギー量

原油換算		
ベースライン (①)	実績 (②)	ベースライン-実績 (①-②)
68.5	63.9	4.6